

九州に於ける夏大豆と秋大豆の分布に就て

古谷義人・遠山良樹・久木井基二・松村長和

農林省農事試験場九州支場

1. はし が き

夏大豆及び秋大豆の分布に關しては已に松本・有賀兩氏の報告があり、福井氏の研究があるが、ある地方にいかなる型の品種が分布し、又何故にその様な型の品種がその地方に分布しているかを知ることは、新たに品種を導入するという場合に参考となる場合が少なくないと考える。

この様な見地から、昭和22年9月は秋大豆につき、昭和23年8月は夏大豆について、それぞれ九州各縣を調査したのでここに報告する次第である。尙調査は當業者並に技術關係者からの聞取及び實地踏査によつたのであるが、諸事情により調査地點が少く、色々の點で誤りなきを期しがたい。諸賢の御叱正を得ば幸いである。

2. 結果並に考察

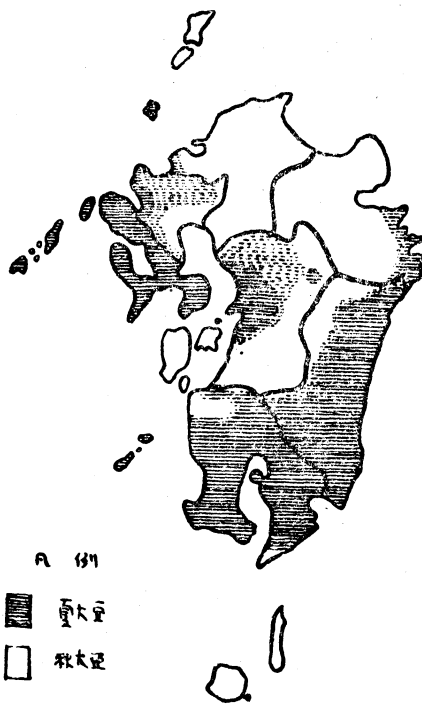
調査結果は別圖に示す如くである。點線は兩型品種の混淆地帯を示す。

夏大豆及び秋大豆の分布は松本・有賀氏によれば、主として品種の生態的條件と經營的條件の兩者により決定するのであらうと述べ、福井氏は更に上の外に、生物的條件並に社會經濟的條件、自然的條件などをあげているが、九州に於てはいかなる條件がどの様に關與して分布を決定しているであらうか。

第1の生態的理由からは、夏大豆・秋大豆ともに九州では十分生育しうる條件にあり、考慮の外におくとして、他の條件の中では生物的條件と經營的條件が先ず考えられるのではあるまいか。

水田地帯に就てみるに、畦畔にアゼマメとして栽培される關係から大體秋大豆が分布していると言えよ

九州に於ける夏大豆、秋大豆の分布



ら。次に畑地帯であるが當支場附近では極早生種の早播を行えばある程度栽培可能であるが、サヤタバエの被害多く經濟的に成り立たないために秋大豆が好成績を示している。又阿蘇の内牧地方に於てもサヤタバエのために夏大豆の栽培は不可能とされている。處が鹿兒島縣では逆に秋大豆がサヤタバエのために畦畔大豆さえ思わしくなく夏大豆しか栽培されないとされている。出水地方では兩型ともかなり收量はある

が、甘藷との混作の関係上秋大豆が分布した所もある。その他兩型の混淆地帯ではいずれも収量があるが個々の經濟の條件の差異から双方が取入れられたと考えられる。

以上の様に夏大豆又は秋大豆は一つの地帯をなして分布しているのであるが、例外的にそれらの地帯の中に點々と他方の型の品種が分布している場合もある様で、阿蘇の南郷谷、福岡縣浮羽郡、都城、宮崎縣の一部等である。今少しこまかくみれば當支場内に於ても夏大豆がその位置によりサヤタマバエの被害が極めて少なくよい収量をあげることがある。この様な點を見るとサヤタマバエの被害が大きいと言われる地帯の中でも僅かなミクロクリマの差異によつて、被害をまぬがれて反對の方の型が分布するに至つたのではあるまいか。

要するに大豆品種の分布には種々な原因がからみ合つて決定されるわけであるが、(1)夏大豆と秋大豆との

いずれか一方が収量の上らないために——それは主として害虫によると考えられる——止むなく他の型の品種を栽培する場合と(2)兩方の型の品種ともに栽培可能であるが經營的條件によつていずれかを栽培する場合の二つが考えられる。九州全體を綜合して見た場合上の二つの場合の中、前者の場合がより多いのではないかと考えているのであるが、詳細に關しては後日を期したいと思う。

参 考 文 献

1. 松本友記：大豆品種の地方的分布に就て，育種研究，第1輯。
2. 有賀武典：大豆品種の生態型，農及園，23卷，11號。
3. 福井重郎：大豆品種の生態に關する研究，未發表。